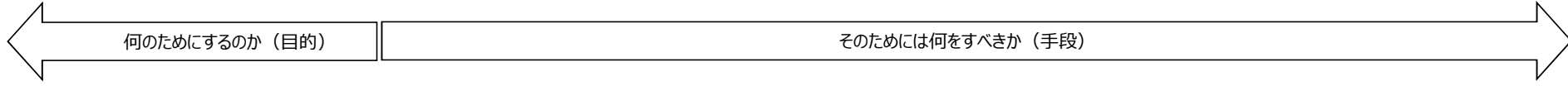


第2期松戸市子ども総合計画の施策の体系（案）



施策分類の定義 KEY WORD

—分類の視点—
「全ての子どもが本来もっている力を最大限発揮するためにはどのような施策が必要か」という視点でまとめています。

—KEY WORD—
・幼児教育・保育
・子どもの居場所
・子どもの自立
・子どもの権利

基本目標	施策の方向	施策	主な事業
< I > 【子どもの力】 子どもの権利が尊重され、心豊かに育つことができる	1 乳幼児期から心豊かに成長できる	I-1-1 乳幼児期から多様な体験ができる環境を提供する	ブックスタート、家庭教育支援事業
		I-1-2 乳幼児期の教育・保育を充実させる	保育所（園）等の整備、幼稚園の預かり保育の整備、楽しい英語あそび事業等
		I-1-3 幼稚園・保育所（園）・小学校との連携を推進する	幼保小の情報交換、就学接続期の教育・保育に関する研究
	2 青少年が生きる力を育むことができる	I-2-1 放課後子ども総合プランを推進する	放課後児童クラブ、放課後KIDSルーム
		I-2-2 地域における子どもの居場所を整備する	児童福祉館事業、中高生の居場所、子どもの遊び場
		I-2-3 多様な体験・交流・学びの機会を提供する	児童福祉館事業、森のこども館事業、博物館事業、戸城歴史館事業
		I-2-4 社会と適切につながる場や機会を確保する	職業体験、農業体験、ゲットユアドリーム、ソーシャルメディアの適切な利用
	3 全ての子どもの自立を支援する	I-3-1 子どもが自分を信じる力を持てる機会を確保する	こども夢フォーラム
		I-3-2 子どもの不安や悩みを解消する	少年相談等子どもの相談
		I-3-3 社会適応の難しい青少年を支援する	いじめ対策、不登校対策、少年センターの機能強化、若者サポートステーション
		I-3-4 障がいのある子どもの自立を支援する	こども発達センター、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援事業
	4 全ての子どもの権利が尊重される	I-4-1 子どもの虐待予防・対策を強化する	松戸市児童虐待防止ネットワーク、子ども家庭総合支援拠点、養育訪問支援事業
		I-4-2 子どもの未来応援（貧困対策）を推進する	松戸市子どもの未来応援プランの推進
		I-4-3 外国籍の子どもへの支援を充実させる	外国人のこどものための学習支援、日本語支援、地域子育て支援拠点での交流
		I-4-4 子どもが参画できる機会を推進する	こどもフォーラム事業、こどもモニター事業

これまで出てきた課題・意見

- ・増え続ける保育ニーズへの対応。子どもを安心して預けられる環境づくりが必要
- ・乳幼児期の教育・保育の質を向上させていくためには、教員・保育士の確保・支援も必要
- ・中高生が安全に過ごせる場所が必要（量の充実）
- 学校以外で子どもが過ごせる場、いきやすい場、自由な集いの場
- ・子どもの体験できる場所が必要（機能の充実）
- 子どもが失敗体験や遊びこむ場、自己表現できる場、体験の場、学習支援の場、人との関わる場、異年齢交流の場
- ・スマートフォン対策が必要→SNSによるいじめや長時間使用に伴う課題への対応が必要
- ・子どもたちの不安や悩みを解消する
- SNS等で気軽に相談できる悩み発信、地域の居場所と学校との連携強化
- ・虐待対応件数は、年々増加傾向になっている
- ・外国籍の人口は増加傾向であり、それに伴い外国籍の子どもの人口も増加している
- ・子どもたちが意見をいえる場づくりが必要

—分類の視点—
子どもが健やかに育つためには、家庭環境がとても大切です。「全ての子育て家庭が安心して子育てをしていくためにどのような施策が必要か」という視点でまとめています。

—KEY WORD—
・母子保健
・相談や情報発信
・ワークライフバランス

基本目標	施策の方向	施策	主な事業
< II > 【家庭の力】 家庭の子育て力が向上し、安心して子育てができる	1 妊娠・出産期から安心して子どもを産み育てられる	II-1-1 安心して妊娠・出産できる支援体制を充実させる	母子健康手帳の交付、ママパパ学級、乳児家庭全戸訪問、産後ケア
		II-1-2 親子の健康を推進する	妊婦健康診査、乳幼児健康診査、わんぱく歯科クラブ、フッ化物洗口、食育
		II-1-3 医療体制を充実させる	市立総合医療センター、夜間小児急病センター
	2 家庭の孤立や不安が解消される	II-2-1 子どもの育ちについて学ぶ機会を提供する	赤ちゃん教室、離乳食教室、家庭教育支援事業、中高生と乳幼児のふれあい体験、
		II-2-2 出産や子育てに関する情報発信を充実させる	まつどDE子育て、ガイドブック、アプリ、LINE、子育てコーディネーター
		II-2-3 妊娠・出産・育児に関する不安を解消する	市民健康相談室、保健福祉センター、親子すこやかセンター、乳児家庭全戸訪問、子育てコーディネーター
	3 子育ての充実感を持つことができる	II-3-1 親子のコミュニケーションを育む機会を提供する	ブックスタート、おやこDE広場、子育て支援センター、保育所（園）の園庭開放
		II-3-2 多様な保育ニーズに対応できる地域子育て支援の充実	一時預かり事業、ファミサポ、ショートステイ、病児・病後児保育
		II-3-3 ワーク・ライフ・バランスの推進	各種就労支援、ひとり親の就労支援等、母子・父子就労促進プログラム
		II-3-4 父親が活躍できる機会の充実	パパ講座、父親への育児情報の提供
	4 多様な課題への支援により、全ての家庭が安心して子育てできる	II-4-1 ひとり親家庭への支援を推進する	児童扶養手当、遺児手当、就労支援、学習支援
		II-4-2 外国籍の家庭への支援を推進する	日本語学級学習支援等、庁内通訳、多言語による情報発信
		II-4-3 障がい児の子どもを持つ家庭への支援を推進する	障害児相談支援等、教育相談・就学相談、各種手当
		II-4-4 生活基盤の安定のために経済的な支援を推進する	幼児教育・保育の無償化、児童手当・児童扶養手当、医療費助成

- ・保護者の子どもの発達に関する不安が多い→健診の充実
- ・未就学児保護者は夜間小児急病センター、ママパパ学級、赤ちゃん教室の認知度や利用率が高い（ニーズ調査）
- ・親自身が悩みを抱えるケースも多く、支援が必要な保護者ほど、孤立している
- ・気軽に相談できる体制（インターネット相談など）が必要
- ・子どもの年齢が上がっても支援や相談できる場所が必要
- ・睡眠・食事の重要性については継続的な情報発信が必要
- ・情報が溢れすぎていて逆にどの情報を選択すればよいか不安になる保護者もいる。
- ・未就学児をもつ夫の家事・育児関連時間については、日本は他の先進諸国と比べて少ない。
- ・ワークライフバランスでは、父親・母親共に家族の時間を楽しめる工夫が必要
- ・「ひとり親家庭」「障害をもつ家庭」「外国籍の家庭」「社会的養護が必要な家庭」など、多様なニーズへきめ細かく対応していく必要がある

—分類の視点—
「子どもと子育て家庭が安心して暮らせるための地域づくりに向けて、どのような施策が必要か」という視点でまとめています

—KEY WORD—
・防犯・防災
・地域共生
・機運の醸成

基本目標	施策の方向	施策	主な事業
< III > 【地域の力】 地域の特色と活力を活かし、子どもと家庭を支える	1 子どもと子育て家庭が安全に安心して暮らせる	III-1-1 安全対策や防犯対策を強化する	こども110番の家、自主防犯パトロール、防犯カメラ設置促進、安心・安全メール
		III-1-2 防災対策を推進する	防災・災害の講座
		III-1-3 親子が安心して外出できる環境を整備する	あかちゃんポケットの提供事業、移動式授乳室の設置
	2 子どもたちが地域でいきいきと成長できる	III-2-1 子どもが地域で交流できる機会を増やす	子ども会、スポーツ少年団活動、保育所での地域交流、子育てサロン
		III-2-2 青少年が社会にかかわる機会を増やす	ゲットユアドリーム、中高生と赤ちゃんのふれあい体験、青少年会館、夢教室、
	3 子どもと子育て家庭に関わるネットワークを充実させる	III-3-1 地域で子育て支援に関わる個人・団体との連携を強化する	民生委員・児童委員、子ども食堂、子育てフェスティバル
		III-3-2 子育て支援に関わる人材を育成する	子育て支援員認定研修と松戸市人材バンク制度、子育て支援員養成講座
		III-3-3 豊富な知識、経験を持つ地域の人が活躍する機会を増やす	市民活動サポートセンター、地域活躍塾、Let's体験
	4 子どもと子育て家庭を地域全体で応援する	III-4-1 企業や大学との連携を推進する	聖徳大学との連携
		III-4-2 子どもや子育て家庭に関心を持つ人たちを増やす	育児の情報発信、子どもの未来応援講座、パートナー講座

- ・安全対策の強化として、ITCを活用した対策や見守り活動の充実が必要
- ・保護者は子どもの外出に際して交通事故や犯罪被害を心配し、防犯ブザーや携帯電話を持たせている割合も高い
- ・子どもたちが社会参画できる機会を増やす、地域ボランティア活動の充実、子どもたちが意見をいえる場づくりが必要
- ・専門機関の連携が必要
- ・インターネットをうまく活用しての情報発信や子育ての機運醸成を図ることが必要